

結婚・子育て意識調査報告書

平成27年3月
宮崎県

目 次

I 調査の概要

1 調査目的	・・・ 1
2 調査設計	・・・ 1
3 調査票の回収結果	・・・ 1
4 回答者の属性	・・・ 1

II アンケート結果の概要

1 結婚に関すること	
○結婚に関する意識	・・・ 5
○結婚に対する負担	・・・ 9
○結婚することによる利点	・・・ 10
○結婚することによる不利益	・・・ 11
○未婚化・晩婚化の理由	・・・ 12
○独身者の結婚に対する意向	・・・ 14
2 出産と子育てに関すること	
○子育てに関する不安・負担感	・・・ 15
○子育てに関する悩み・不安の内容	・・・ 16
○子育てに関する悩みや不安の相談相手	・・・ 17
○子どもの数（理想・予定）	・・・ 18
○理想より予定している子どもの数が少ない理由	・・・ 19
3 仕事と子育ての両立に関すること	
○仕事と子育てを両立させるための取組	・・・ 20
○男性の育児参加のために必要なこと	・・・ 21
○育児休業制度の利用意向	・・・ 22
○育児休業制度を利用したくない理由	・・・ 23
○男性の育児休業制度取得に対するイメージ	・・・ 24
4 その他	
○急用時に子どもを預ける場所	・・・ 25
○子育て環境の整備について行政に望むこと	・・・ 26

III 参考資料

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、結婚や子育てに関する県民の意見・ニーズを把握し、今後の子ども・子育て支援の各種施策の推進に活用するとともに、子ども・子育て支援新制度の施行に伴い県が策定する「みやざき子ども・子育て応援プラン」の策定に際しての参考資料とするために実施したものです。

2 調査設計

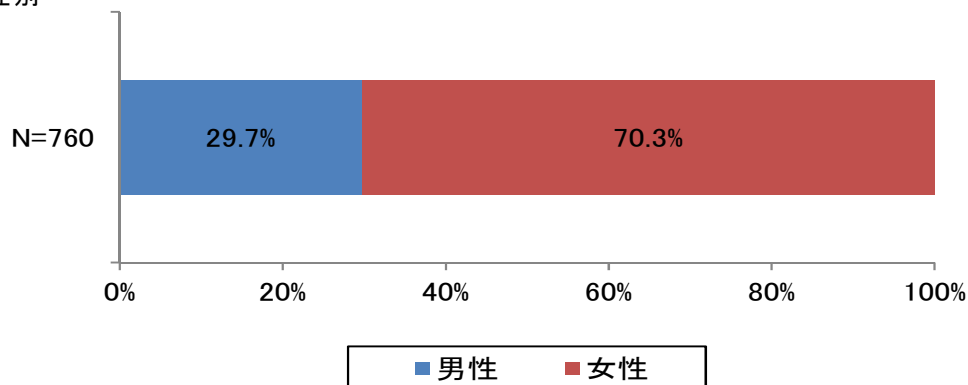
- 調査地域 宮崎県内全域
- 調査対象者 県内に居住する20代から40代までの男女
- 標本数 3,000人（男女比率は同率）
- 標本抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- 調査方法 郵送による配布・回収
- 調査期間 平成26年8月
- 区域区分 今回の調査は平成26年5月1日現在の県内の26市町村の人口を基に、各市町村の標本数を算出したものです。

3 調査票の回収結果

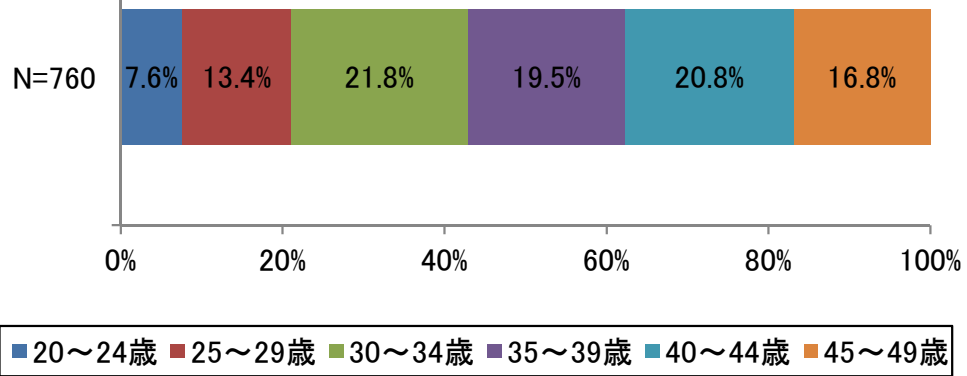
調査対象数	3,000人
有効票数	764人
回収率	25.5%

4 回答者の属性

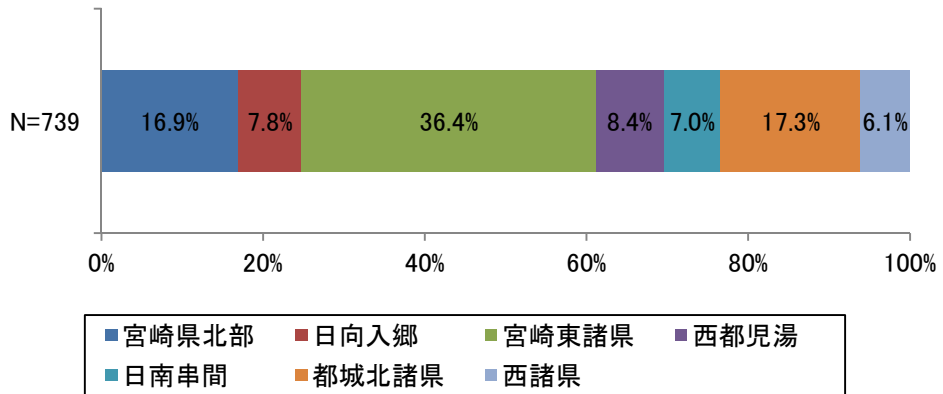
① 性別



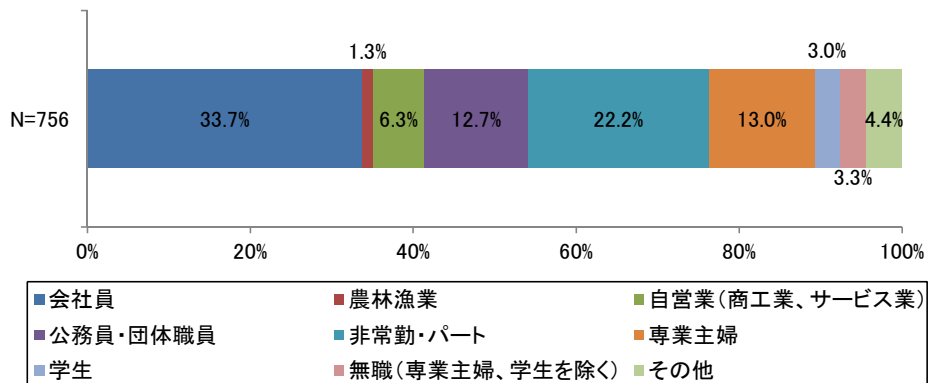
② 年齢



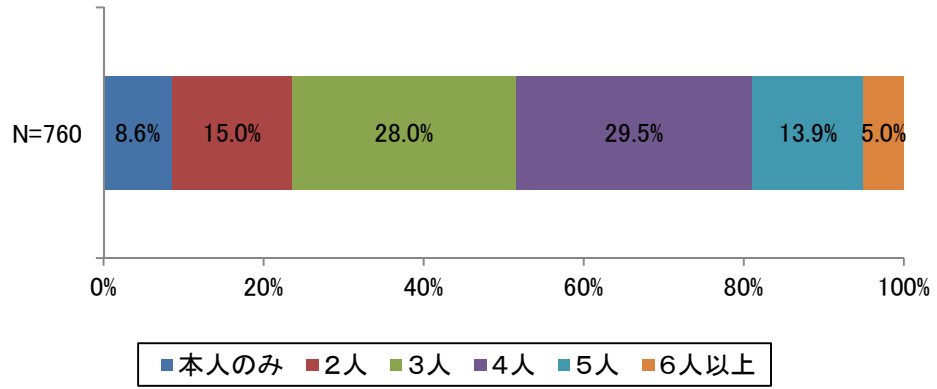
③ 居住地（二次医療圏別）



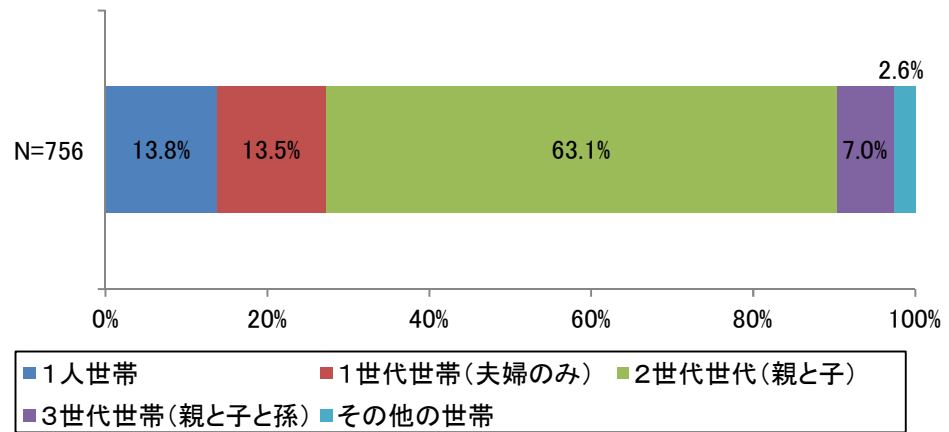
④ 職業



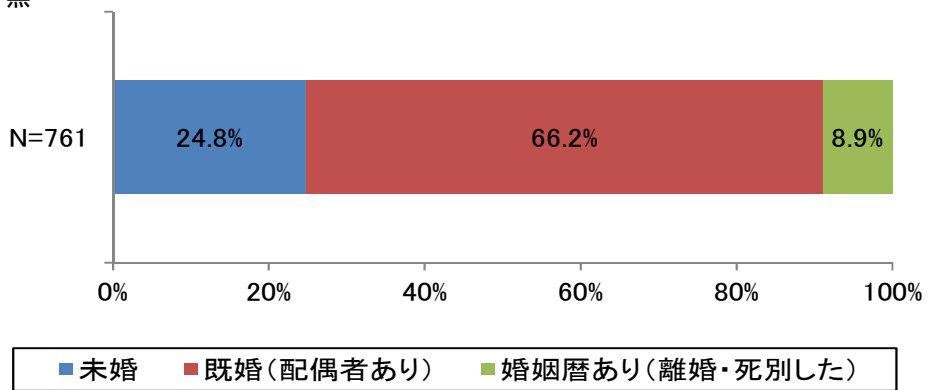
⑤ 世帯人員



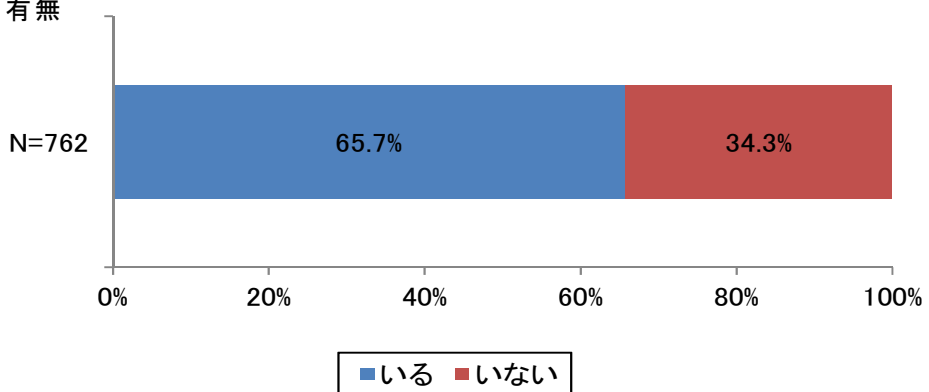
⑥ 世帯構成



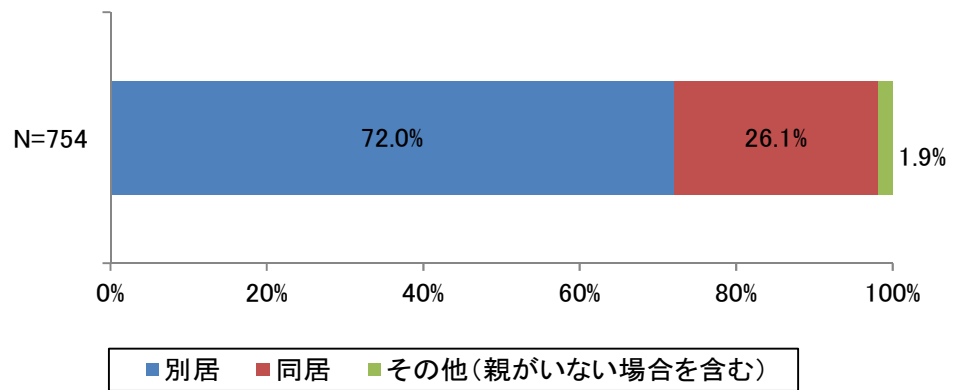
⑦ 婚姻の有無



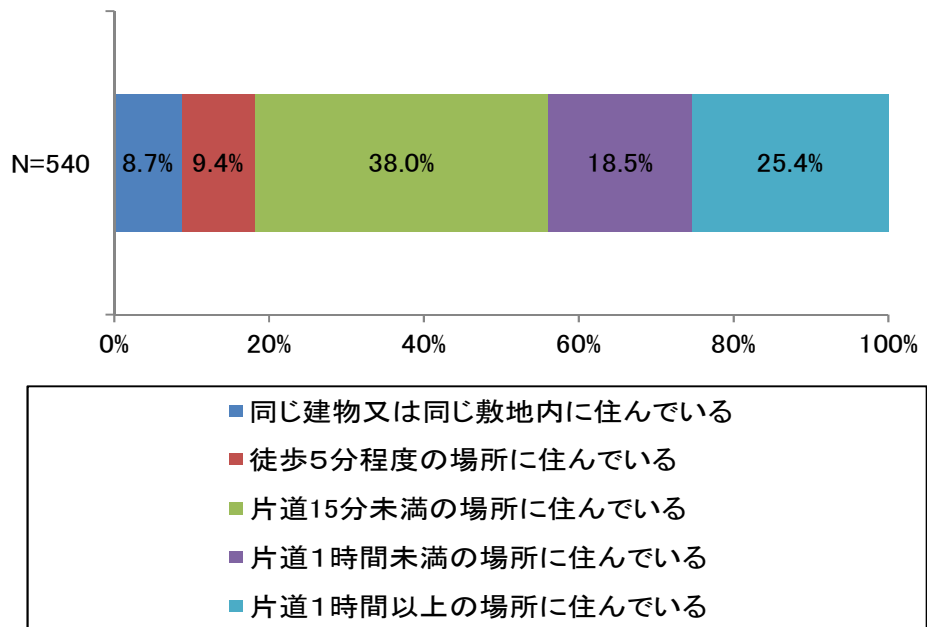
⑧ 子どもの有無



⑨ 親との同居または別居の状況



⑩ 別居の場合、本人または配偶者の親の居住地



Ⅱ アンケート結果の概要

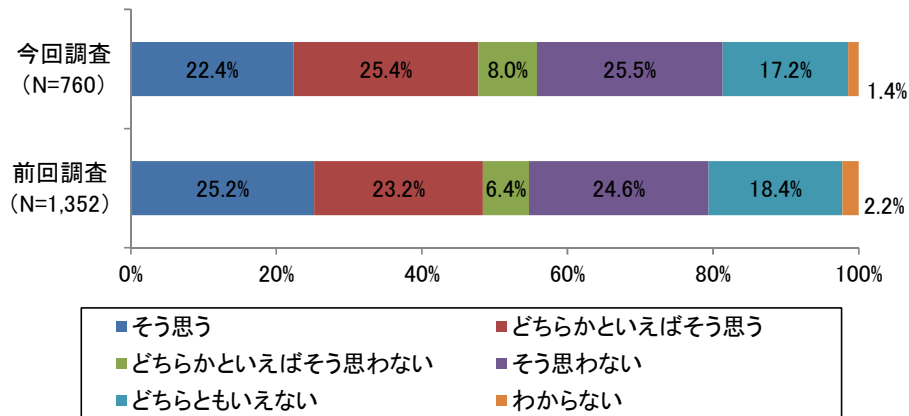
1 結婚に関すること

○結婚に関する意識	
ア 生涯を独身で過ごすことは望ましい生き方ではない。	
肯定的 … 47.8%	否定的 … 33.5%
イ 結婚したら、家庭のために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である。	
肯定的 … 32.9%	否定的 … 56.5%
ウ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。	
肯定的 … 10.6%	否定的 … 79.6%
エ 結婚したら子どもを持つべきである。	
肯定的 … 44.6%	否定的 … 35.6%
オ 恋愛と結婚は別である。	
肯定的 … 59.3%	否定的 … 25.1%
カ いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない。	
肯定的 … 42.1%	否定的 … 35.1%

ア 生涯を独身で過ごすことは望ましい生き方ではない。

肯定的な考え方を持つ人が47.8%と半数近くを占めており、否定的な考え方を持つ人の33.5%を14.3ポイント上回っています。また、肯定的な考え方を持つ人の割合(47.8%)については、前回調査時(48.4%)と比べると、ほとんど変化はありません。

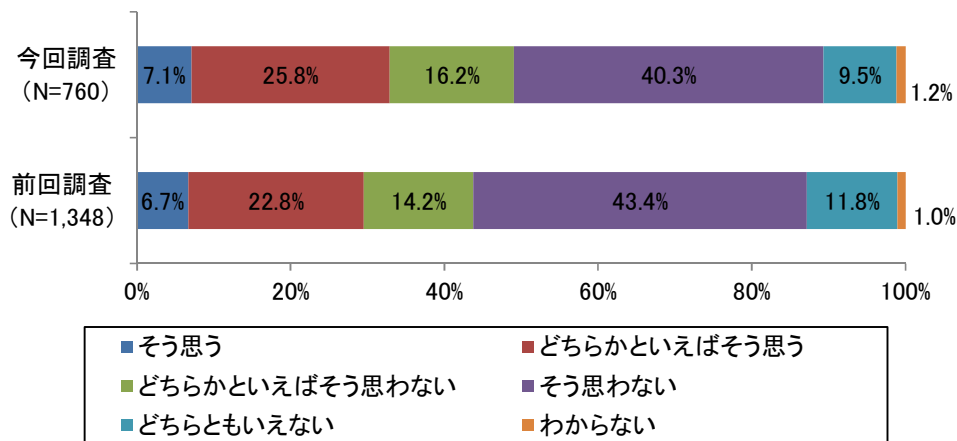
生涯を独身で過ごすというのは望ましい生き方ではない



イ 結婚したら家庭のために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である。

否定的な考え方を持つ人の割合が 56.5%となっており、その中でも「そう思わない」が 40.3%に達しています。また、否定的な考え方を持つ人の割合（56.5%）については、前回調査時（57.6%）と比べると、ほとんど変化はありません。

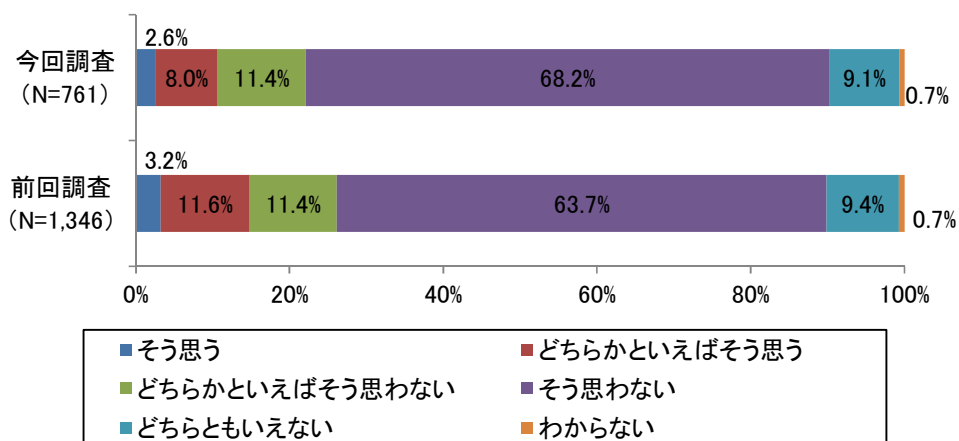
結婚したら家庭のために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である。



ウ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。

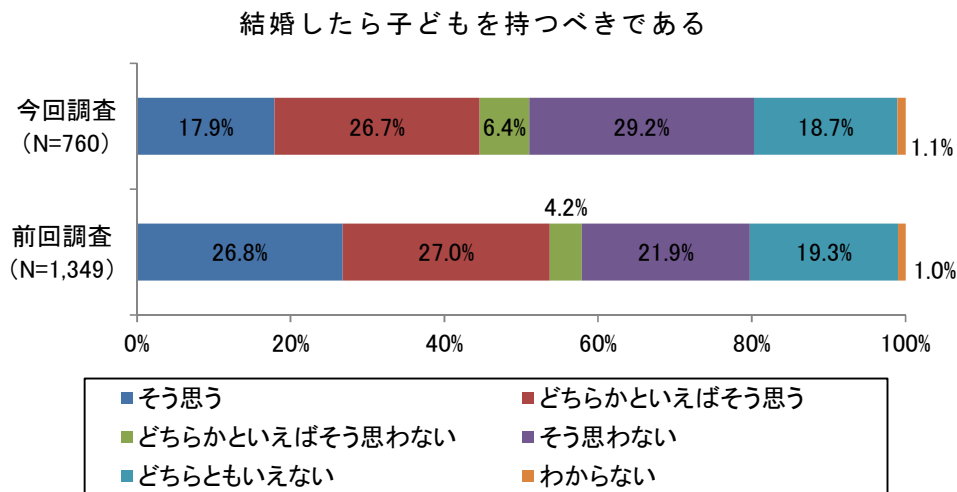
否定的な考え方を持つ人の割合（79.6%）が約 8 割を占めており、その中でも「そう思わない」が 68.2%に達しています。また、否定的な考え方を持つ人の割合（79.6%）については、前回調査時（75.1%）と比べると、ほとんど変化はありません。

結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



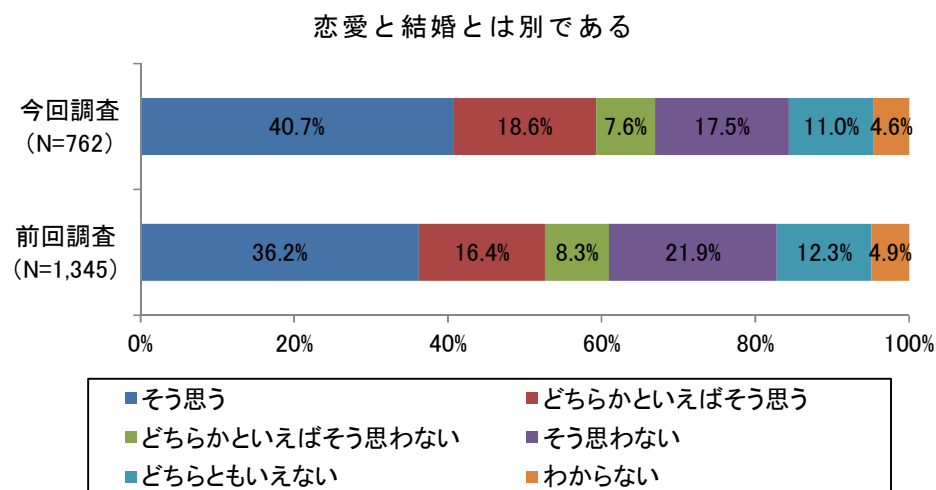
エ 結婚したら子どもを持つべきである。

肯定的な考えを持つ人の割合が 44.6%となっています。また、肯定的な考え方を持つ人の割合（44.6%）については、前回調査時（53.8%）と比べると、9.2ポイント下回っています。



オ 恋愛と結婚とは別である。

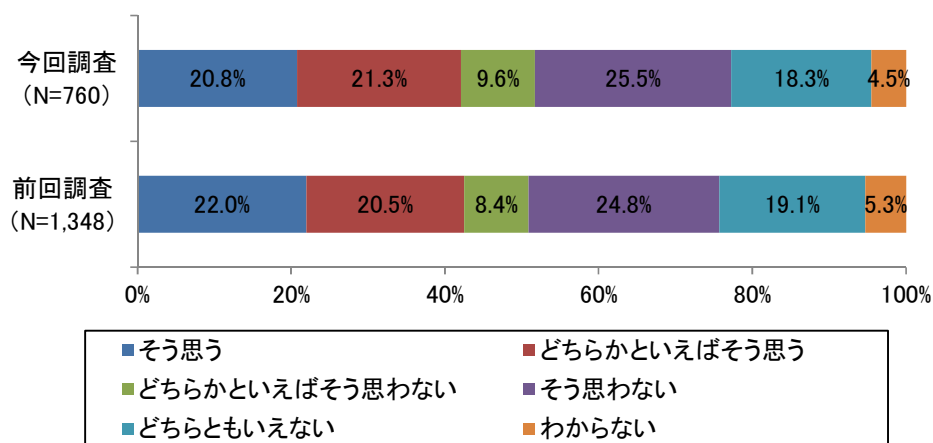
肯定的な考え方を持つ人の割合（59.3%）が約6割を占めており、その中でも「そう思う」が40.7%となっています。また、肯定的な考え方を持つ人の割合（59.3%）については、前回調査時（52.6%）と比べると、6.7ポイント上回っています。



カ いったん結婚したら、性格の不一致ぐらいで別れるべきではない。

肯定的な考えを持つ人の割合が 42.1%となっています。また、肯定的な考え方を持つ人の割合（42.1%）については、前回調査時（42.5%）と比べると、ほとんど変化はありません。

いったん結婚したら、性格の不一致ぐらいで別れるべきではない



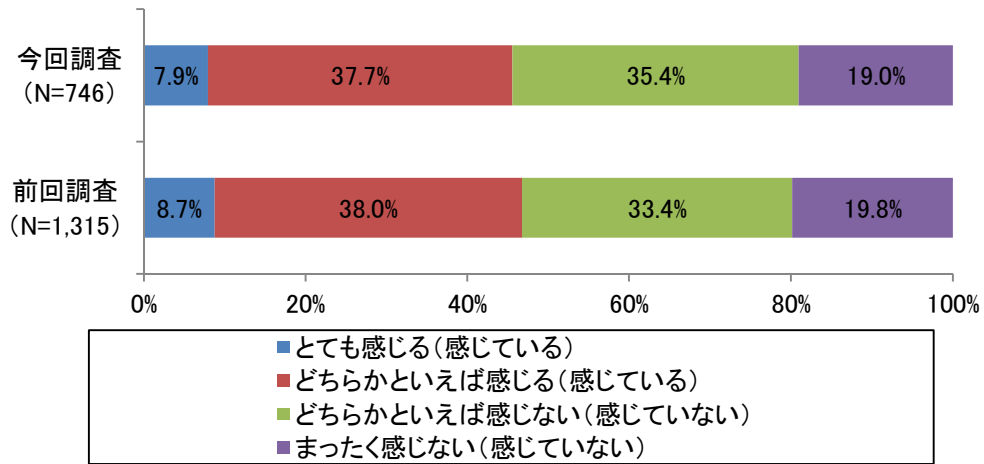
○結婚に対する負担

結婚に対して負担を感じる人の割合 … 45.6%

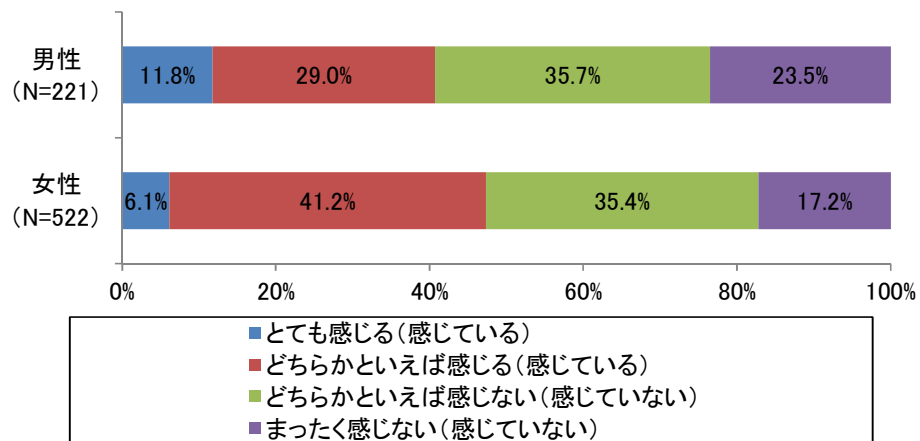
結婚に対して負担を感じるかどうかについては、「とても感じる」または「どちらかといえば感じる」と回答した人の割合を合わせると、5割弱の人が何らかの形で結婚に対する負担を感じていることが分かります。

男女別では男性よりも女性において「負担を感じている人」の割合が高くなっています。

全体



男女別



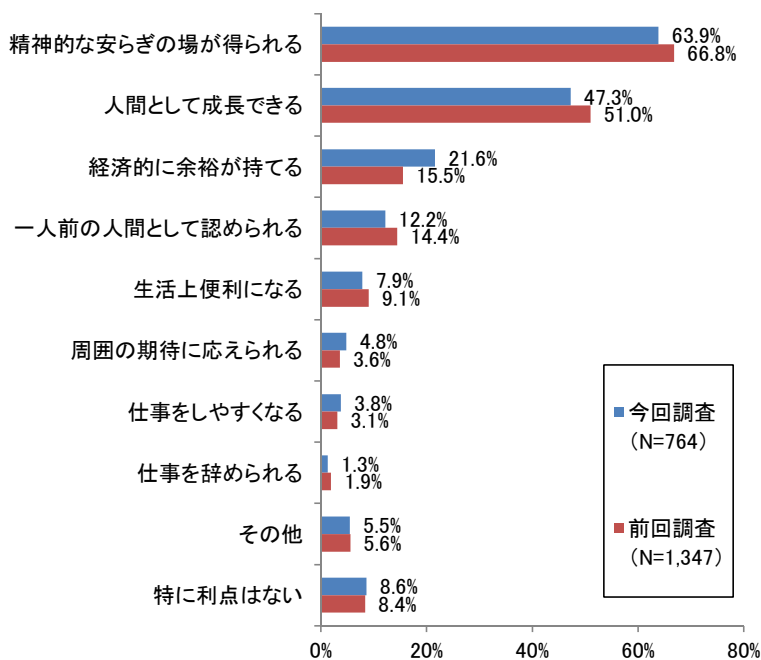
○結婚することによる利点

- | | | | |
|----|------------------|---|-------|
| 1位 | 「精神的な安らぎの場が得られる」 | … | 63.9% |
| 2位 | 「人間として成長できる」 | … | 47.3% |
| 3位 | 「経済的に余裕が持てる」 | … | 21.6% |

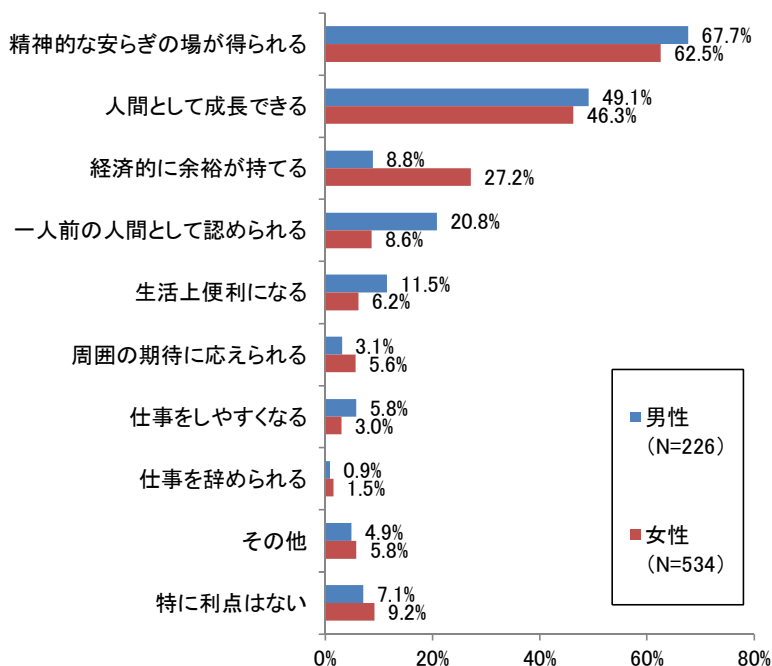
結婚することによってどのような利点が生じると考えるかについては、「精神的な安らぎの場が得られる」（63.9%）及び「人間として成長できる」（47.3%）と回答した人の割合が特に高くなっています。

前回調査時と比べると、「精神的な安らぎの場が得られる」及び「人間として成長できる」は依然として高い一方、「経済的に余裕が持てる」などの項目では前回を上回っています。男女別では、男性で「一人前の人間として認められる」（20.8%）、女性で「経済的に余裕が持てる」（27.2%）の割合が高くなっています。

全体



男女別



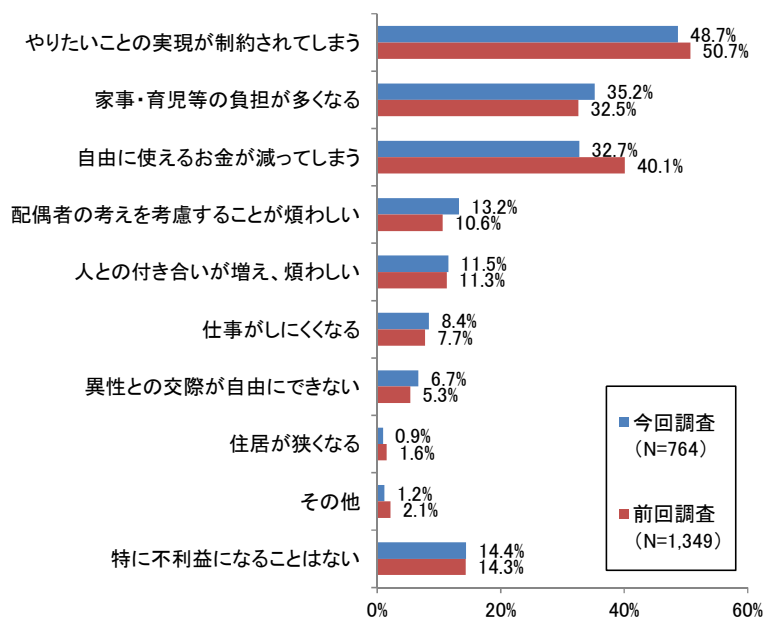
○結婚することによる不利益

1位	「やりたいことの実現が制約されてしまう」	…	48.7%
2位	「家事・育児等の負担が多くなる」	…	35.2%
3位	「自由に使えるお金が減ってしまう」	…	32.7%

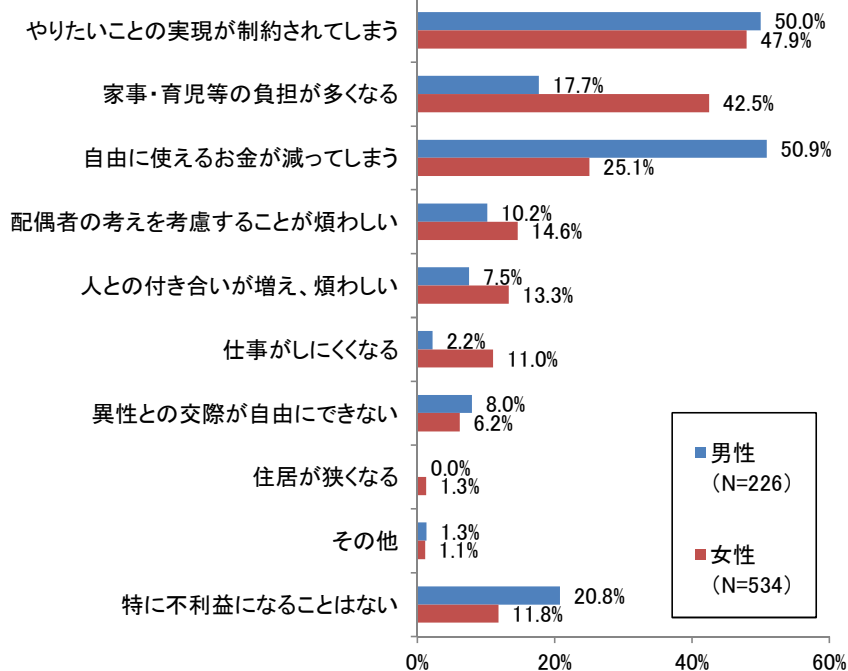
結婚することによって生じる不利益については、「やりたいことの実現が制約されてしまう」（48.7%）、「家事・育児等の負担が多くなる」（35.2%）、「自由に使えるお金が減ってしまう」（32.7%）と回答した人の割合が高くなっています。

男女別では、男性で「自由に使えるお金が減ってしまう」（50.9%）、「やりたいことの実現が制約されてしまう」（50.0%）の割合が高いのに対し、女性では、「やりたいことの実現が制約されてしまう」（47.9%）、「家事・育児等の負担が多くなる」（42.5%）の割合が高くなっています。

全体



男女別



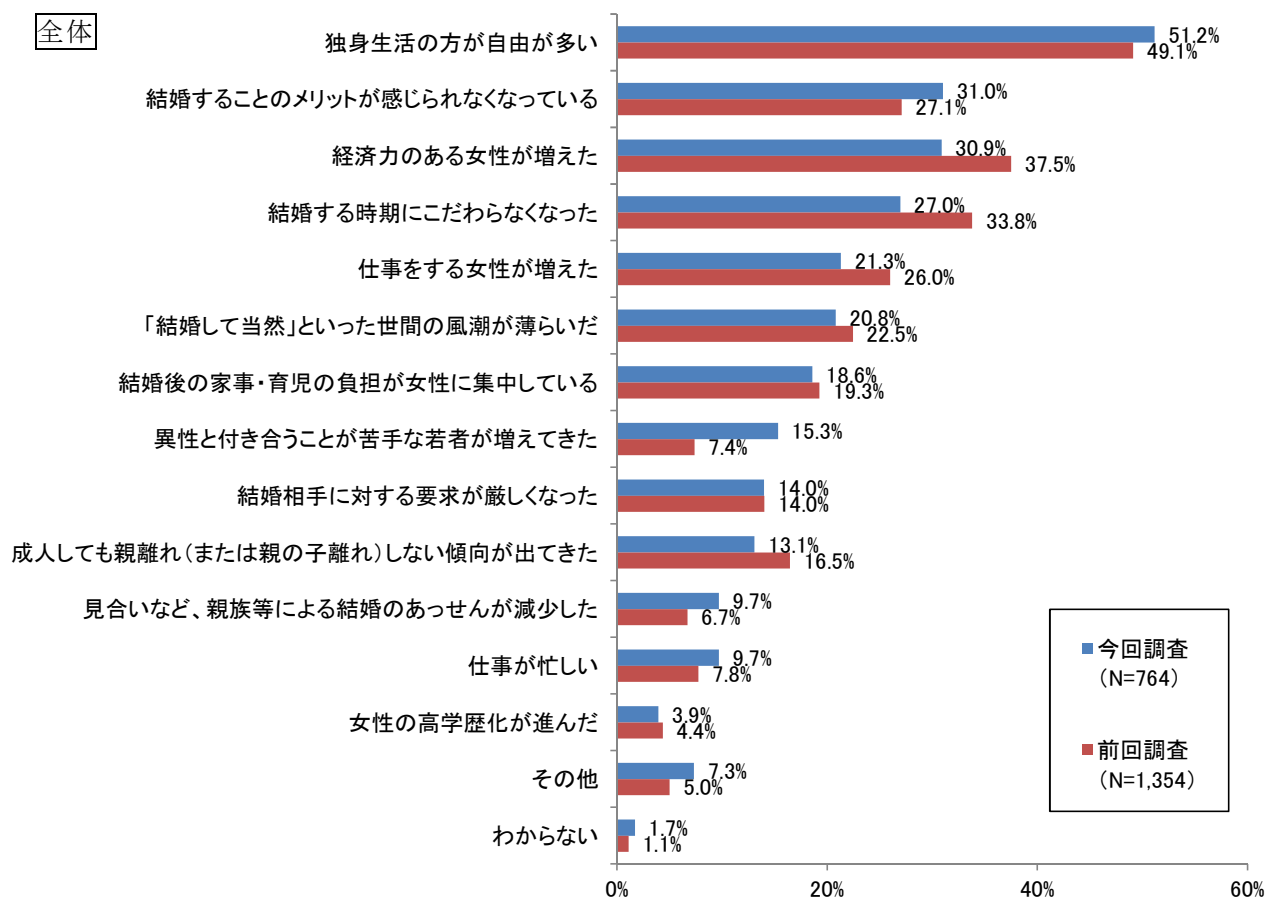
○未婚化・晩婚化の理由

1位	「独身生活の方が自由が多い」	…	51.2%
2位	「結婚することのメリットが感じられなくなっている」	…	31.0%
3位	「経済力のある女性が増えた」	…	30.9%

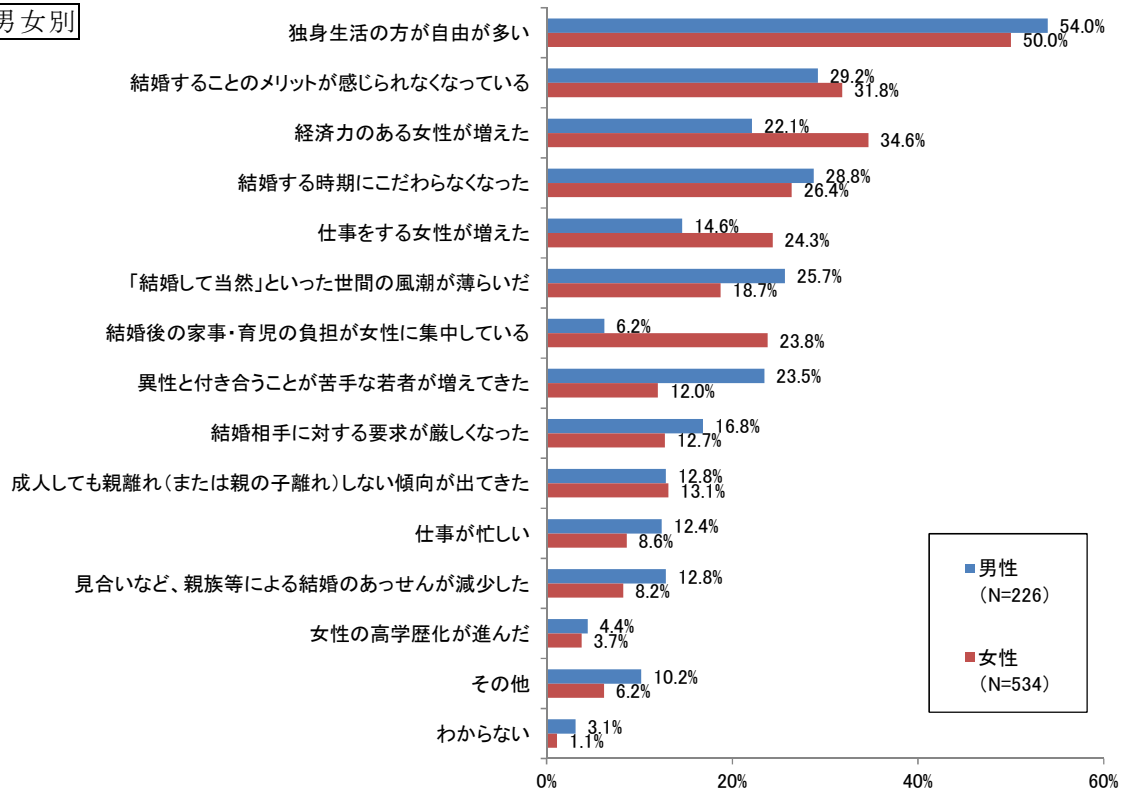
未婚化・晩婚化の理由については、「独身生活の方が自由が多い」（51.2%）、「結婚することのメリットが感じられなくなっている」（31.0%）、「経済力のある女性が増えた」（30.9%）と回答した人の割合が高くなっています。前回調査時と比べると、「独身生活の方が自由が多い」、「結婚することのメリットが感じられなくなっている」が前回を上回る一方、「経済力のある女性が増えた」、「結婚する時期にこだわらなくなった」などの項目が前回を下回っています。

男女別でみると、男性では、「結婚して当然といった世間の風潮が薄らいだ」、「異性と付き合うことが苦手な若者が増えてきた」などの割合が、女性では、「経済力のある女性が増えた」、「仕事をする女性が増えた」、「結婚後の家事・育児の負担が女性に集中している」などの割合が高くなっています。

全体



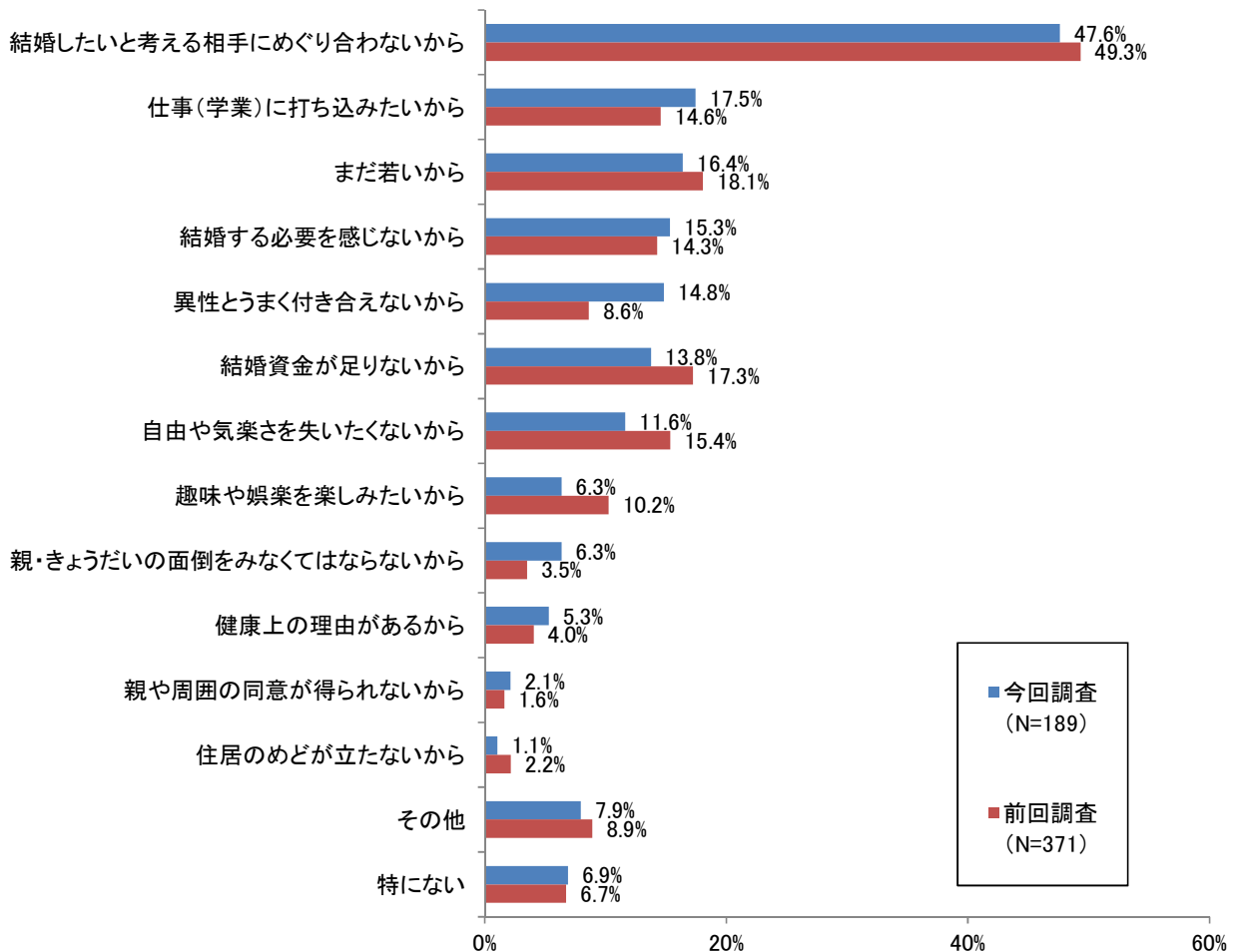
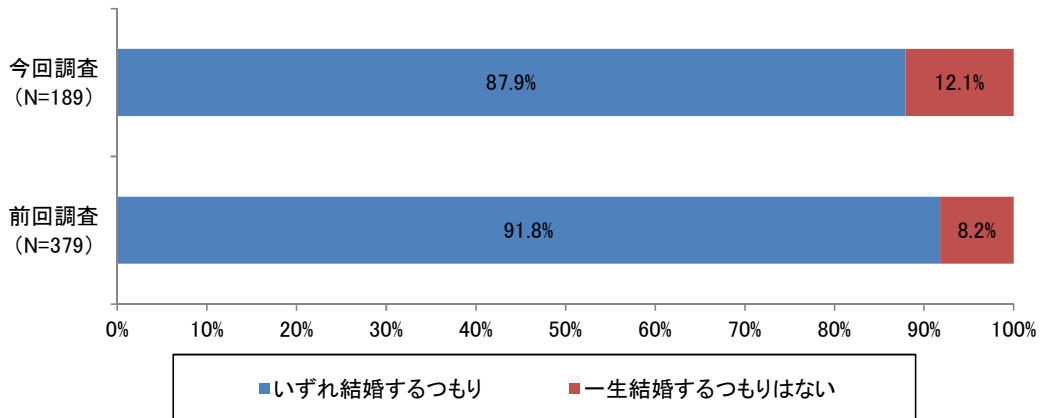
男女別



○独身者の結婚に対する意向

いずれ結婚したい … 87.9%

自分の一生を通じて考えた場合、「いずれ結婚するつもり」が9割近くとなっています。また、独身者である理由については、「結婚したいと考える相手にめぐり合わないから」（47.6%）の割合が最も高くなっています。



2 出産と子育てに関すること

○子育てに関する不安・負担感

子育てに関して、不安や負担を感じる人の割合 … 64.9%

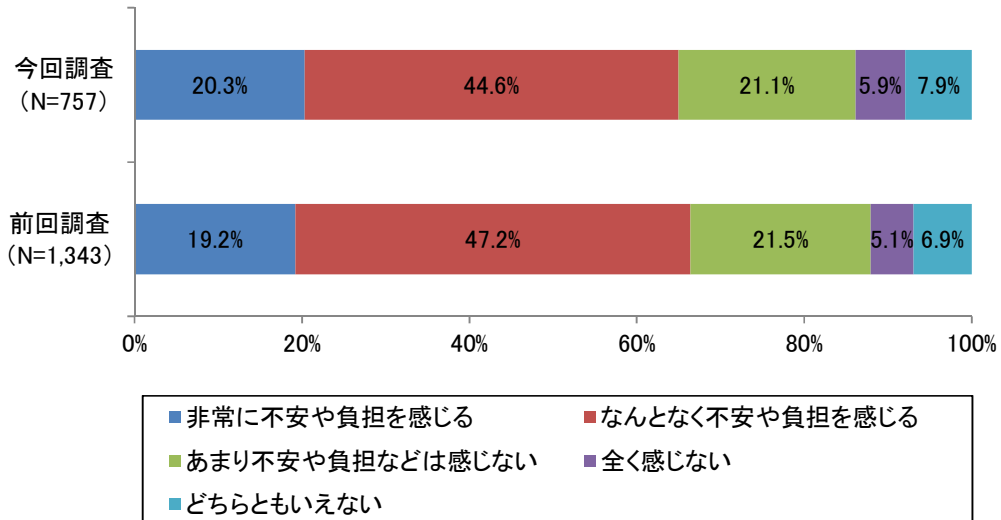
子育てをする上での不安や負担感の有無については、「非常に不安や負担を感じる」と答えた人の割合は20.3%、「なんとなく不安や負担を感じる」は44.6%で、その合計である64.9%の人が何かしら不安や負担を感じています。

一方、「あまり不安や負担を感じない」と答えた人の割合は21.1%、「全く感じない」は5.9%で、その合計である27.0%の人が、子育てに関して不安や負担を感じていません。

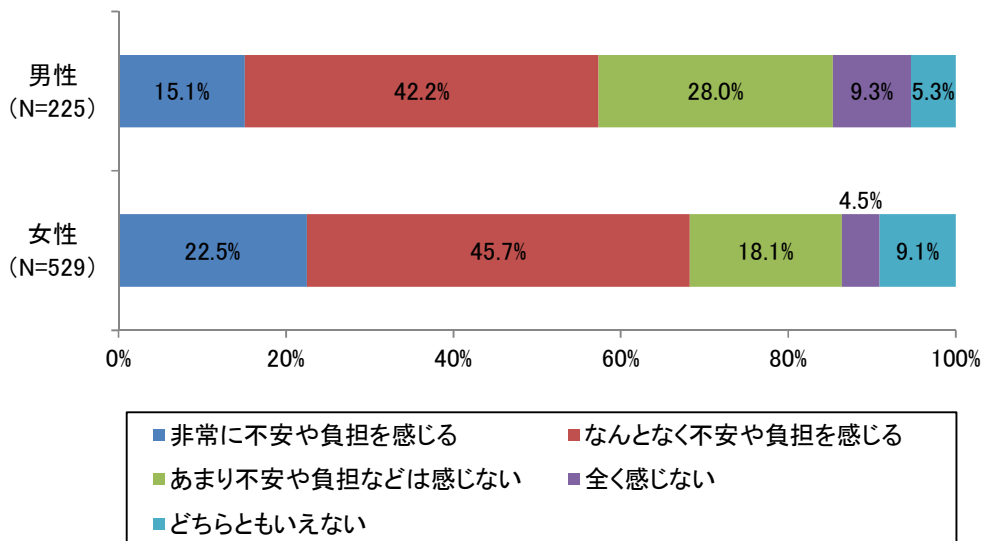
男女別にみると、不安や負担感を感じている人の割合は、男性57.3%に対し、女性は68.2%であり、女性が男性を10.9ポイント上回っています。

さらに、親との同居・別居の状況でみると、不安や負担感を感じている人の割合は、同居が63.5%、別居が69.9%となっており、別居が同居を6.4ポイント上回っています。

全体



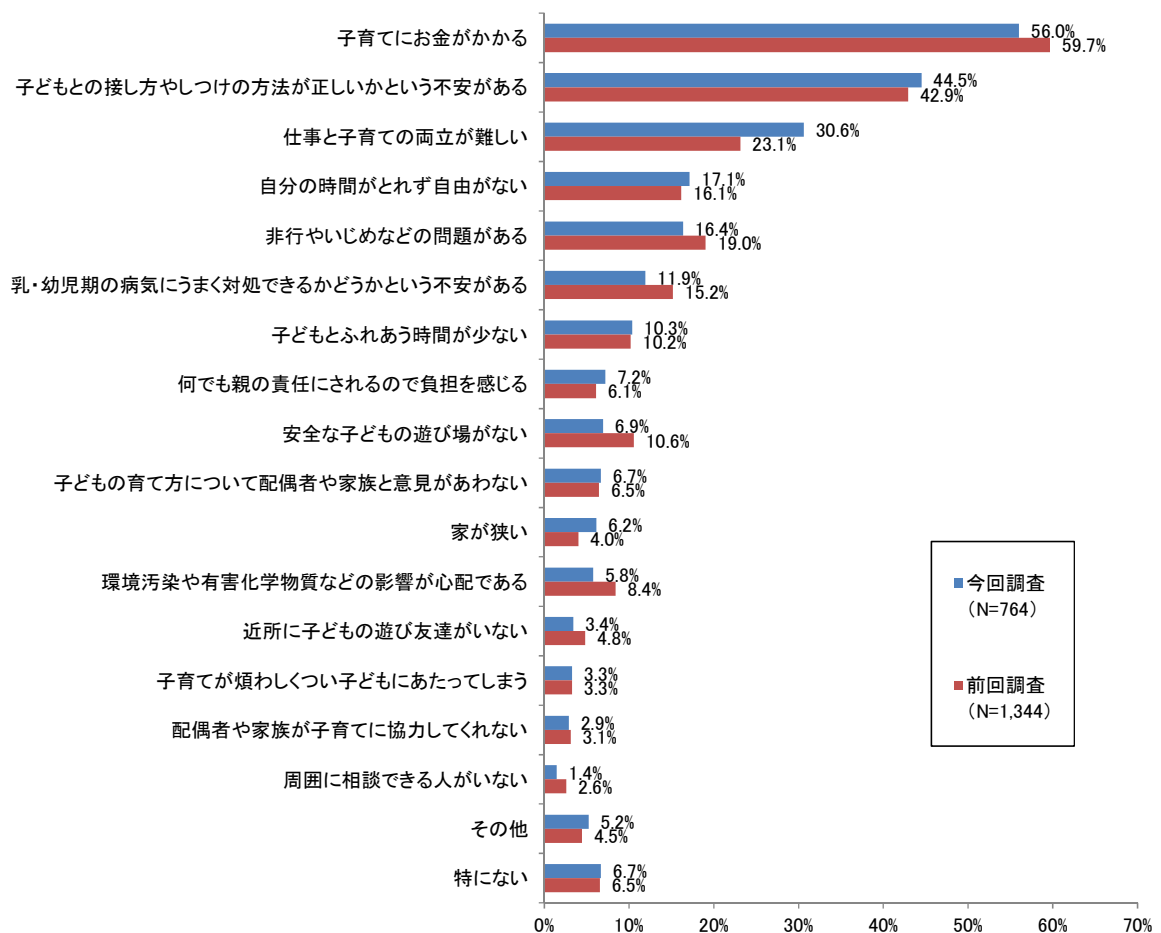
男女別



○子育てに関する悩み・不安の内容	
「子育てにお金がかかる」	… 56.0%
「子どもの接し方やしつけの方法が正しいかという不安がある」	… 44.5%
「仕事と子育ての両立が難しい」	… 30.6%

子育てに関する悩み・不安の内容については、「子育てにお金がかかる」（56.0%）が最も高い割合を占めており、「子どもとの接し方やしつけの方法が正しいかという不安がある」（44.5%）、「仕事と子育ての両立が難しい」（30.6%）、「自分の時間が取れず自由がない」（17.1%）などの順となっています。

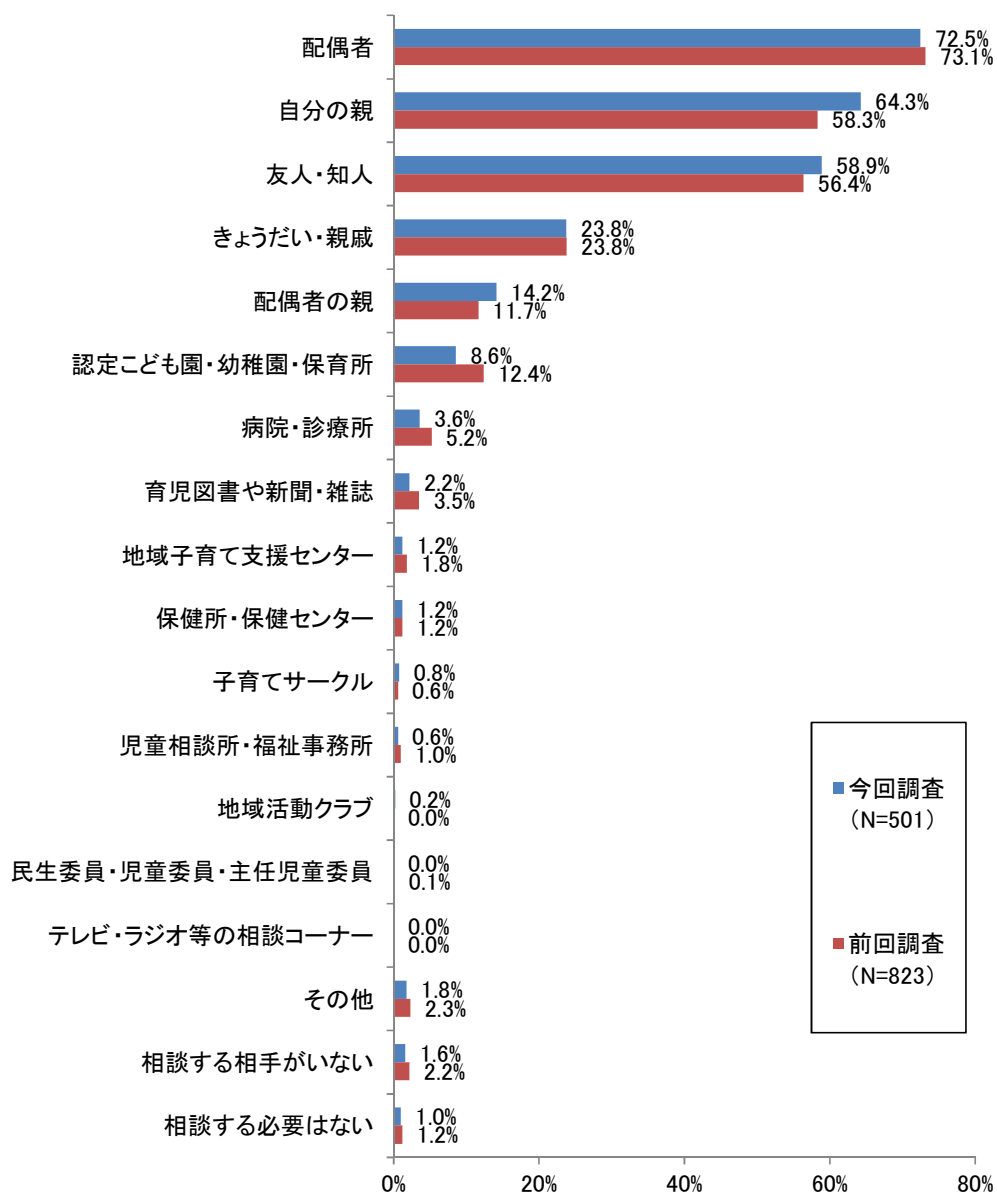
前回調査時と比べると、「子育てにお金がかかる」などの項目が下回る一方、「子どもとの接し方やしつけの方法が正しいかという不安がある」、「仕事と子育ての両立が難しい」などの項目が上回っています。



○子育てに関する悩みや不安の相談相手

1位	配偶者	…	72.5%
2位	自分の親	…	64.3%
3位	友人・知人	…	58.9%

子育てに関する悩みや不安の相談相手については、「配偶者」（72.5%）の割合が最も高く、「自分の親」（64.3%）、「友人・知人」（58.9%）と続いています。また、施設や子育て支援施設への相談としては、「認定こども園・幼稚園・保育所」（8.6%）が最も高く、次いで「病院、診療所」（3.6%）、「地域子育て支援センター」（1.2%）と続いています。

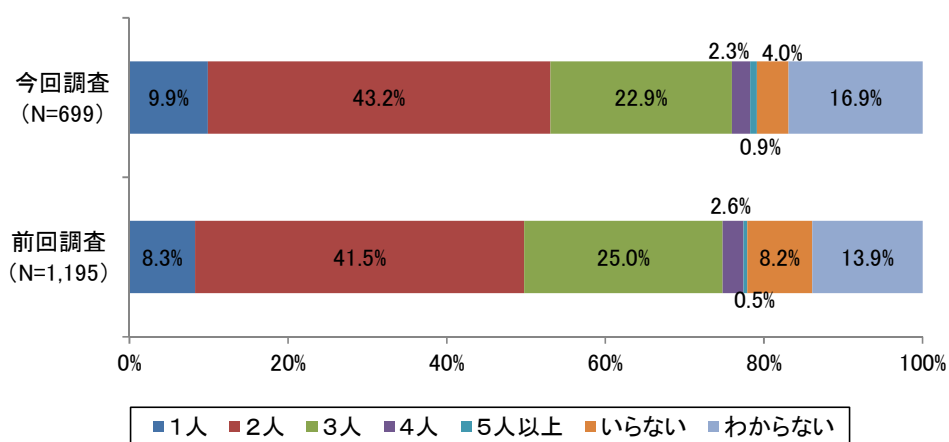


○子どもの数（理想・予定）

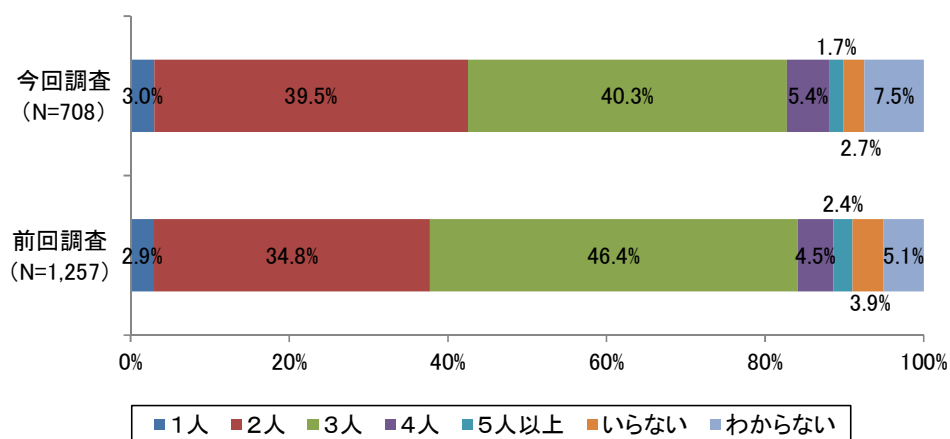
予定している子どもの数 … 「2人」43.2%、「3人」22.9%
 理想の子どもの数 … 「2人」39.5%、「3人」40.3%

現在の子どもの数、理想とする子どもの数及び予定している子どもの数については、理想としている子どもの数は「3人」（40.3%）が最も高い割合であるのに対し、予定している子どもの数は「2人」（43.2%）が最も高い割合となっており、理想との乖離がみられます。

予定している子どもの数



理想としている子どもの数

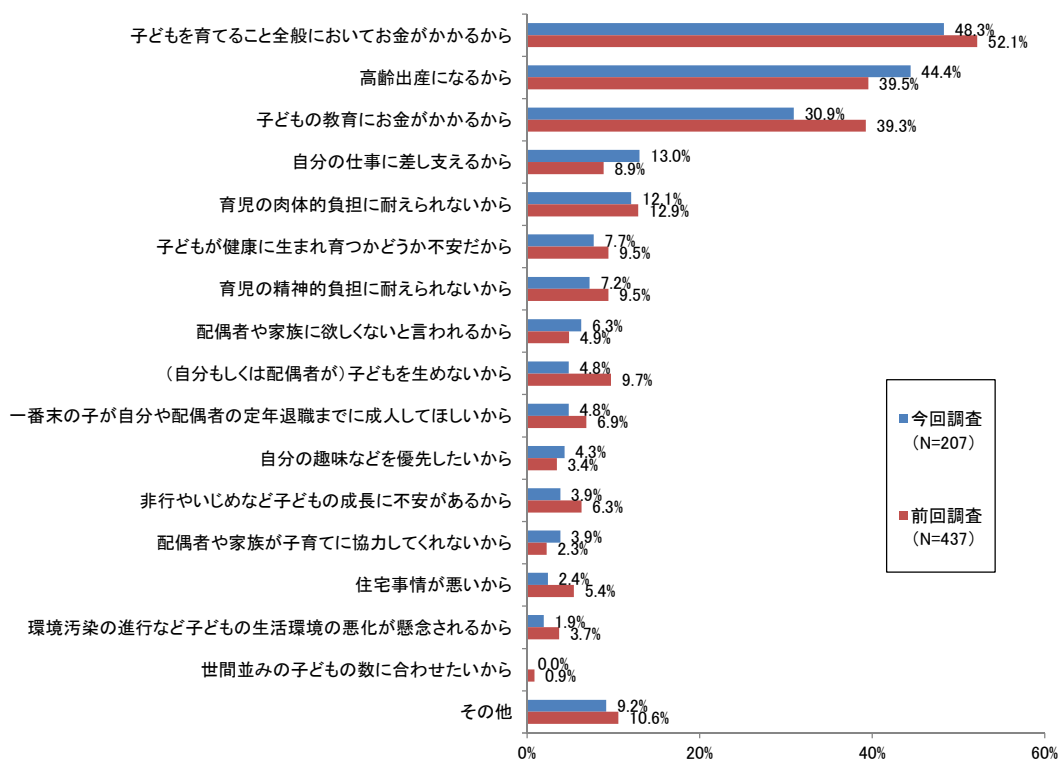


○理想より予定している子どもの数が少ない理由

1位	「子どもを育てること全般においてお金がかかるから」	…	48.3%
2位	「高齢出産になるから」	…	44.4%
3位	「子どもの教育にお金がかかるから」	…	30.9%

「子どもを育てること全般においてお金がかかるから」（48.3%）、以下「高齢出産になるから」（44.4%）、「子どもの教育にお金がかかるから」（30.9%）などの順になっています。

前回調査時と比べると、「子育てにお金がかかる」などの項目が下回る一方、「高齢出産になるから」、「自分の仕事に差し支えるから」などの項目が上回っています。



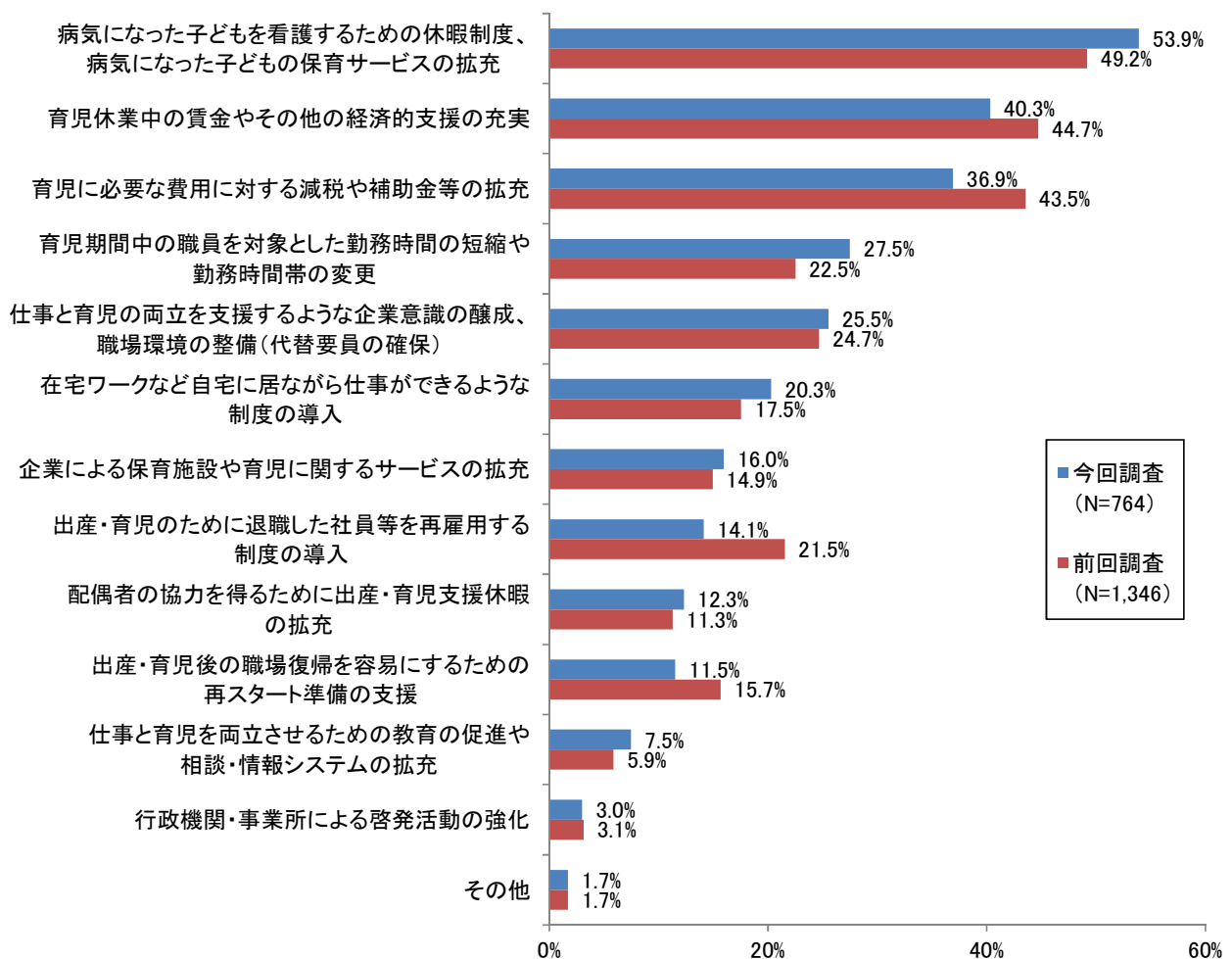
3 仕事と子育ての両立に関すること

○仕事と子育てを両立させるための取組

「病気になった子どもを看護するための休暇制度、 病気になった子どもの保育サービスの拡充」	…	53.9%
「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」	…	40.3%
「育児に必要な費用に対する減税や補助金等の拡充」	…	36.9%

働く人が仕事と子育てを両立させていくために、どのような取組を推進することが必要と考えるかについては、「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」（53.9%）と回答した人の割合が最も高く、以下「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」（40.3%）、「育児に必要な費用に対する減税や補助金等の拡充」（36.9%）などの順となっています。

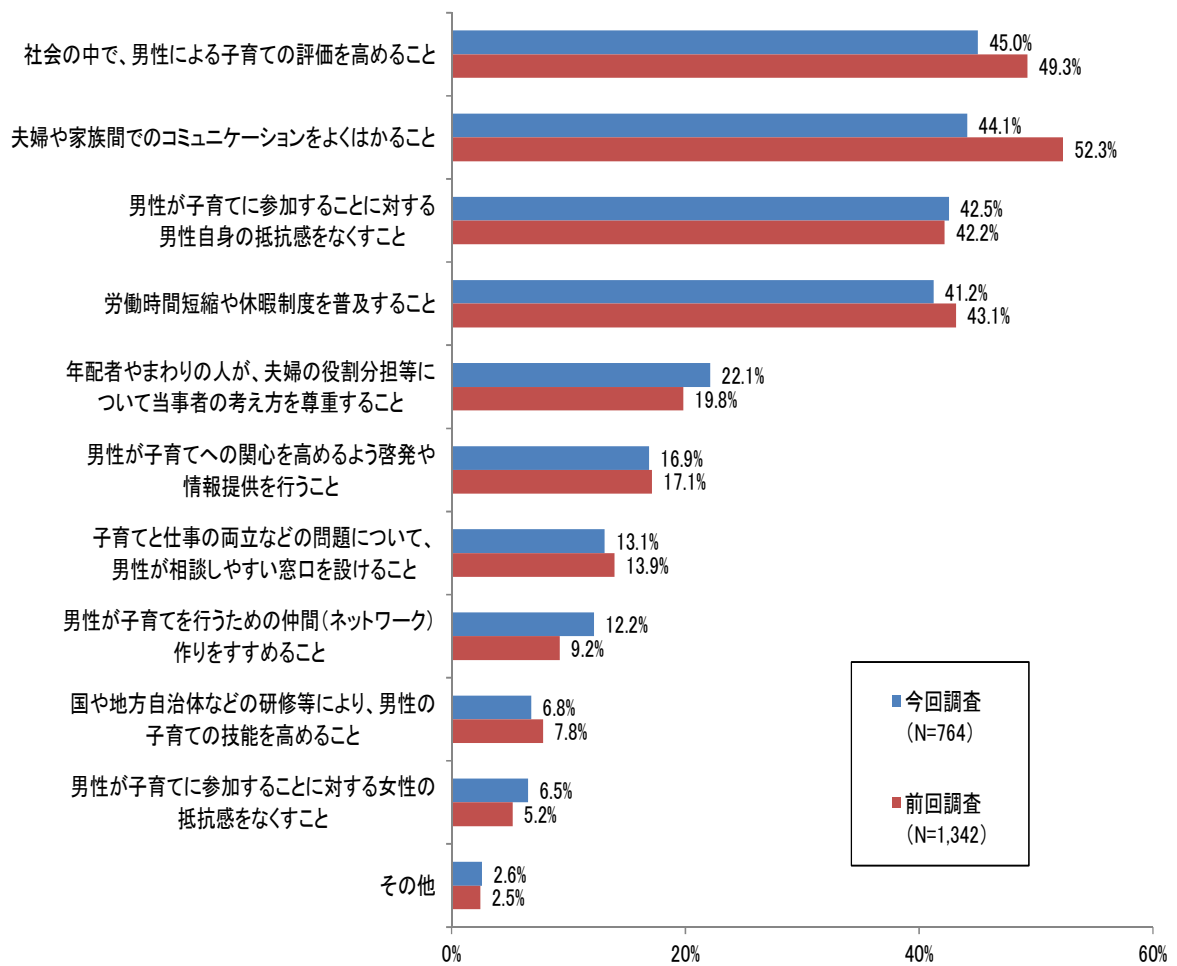
前回調査時と比べると、「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」、「育児に必要な費用に対する減税や補助金等の拡充」などの項目が下回る一方、「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」、「育児期間中の職員を対象とした勤務時間の短縮や勤務時間帯の変更」などの項目が上回っています。



○男性の育児参加のために必要なこと		
「社会の中で、男性による子育ての評価を高めること」	…	45.0%
「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」	…	44.1%
「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」	…	42.5%

男性が女性とともに子育てに積極的に参加するために必要なことについては、「社会の中で、男性による子育ての評価を高めること」（45.0%）と回答した人の割合が最も高く、以下「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（44.1%）、「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（42.5%）などの順となっています。

前回調査時と比べると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「社会の中で、男性による子育ての評価を高めること」などの項目が下回る一方、「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」などの項目が上回っています。



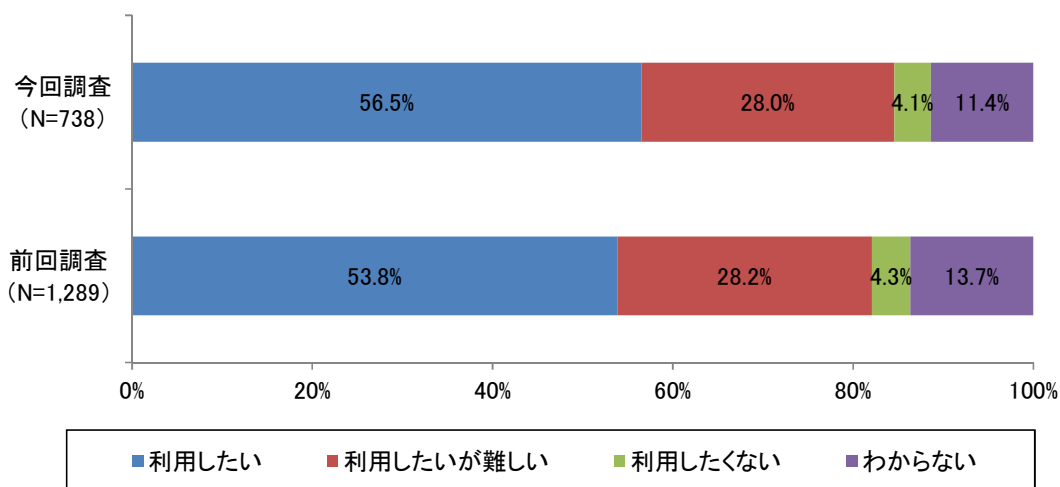
○育児休業制度の利用意向

「利用したい」 … 56.5%
 「利用したいが難しい」 … 28.0%

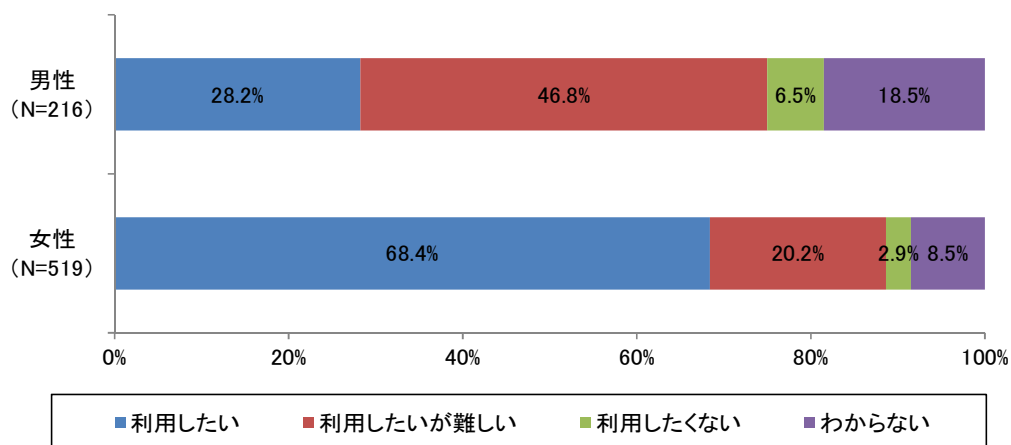
育児休業制度を利用したいと思うかどうかについては、「利用したい」（56.5%）と回答した人が半数以上を占め、「利用したいが難しい」（28.0%）を含めると、8割以上の人が育児休業制度を利用したいと考えています。

また、男女別で見ると、「利用したい」と回答した女性の割合（68.4%）が男性（28.2%）を大きく上回っています。一方、「利用したいが難しい」と回答した男性の割合（46.8%）が女性（20.2%）を大きく上回っています。

全体



男女別

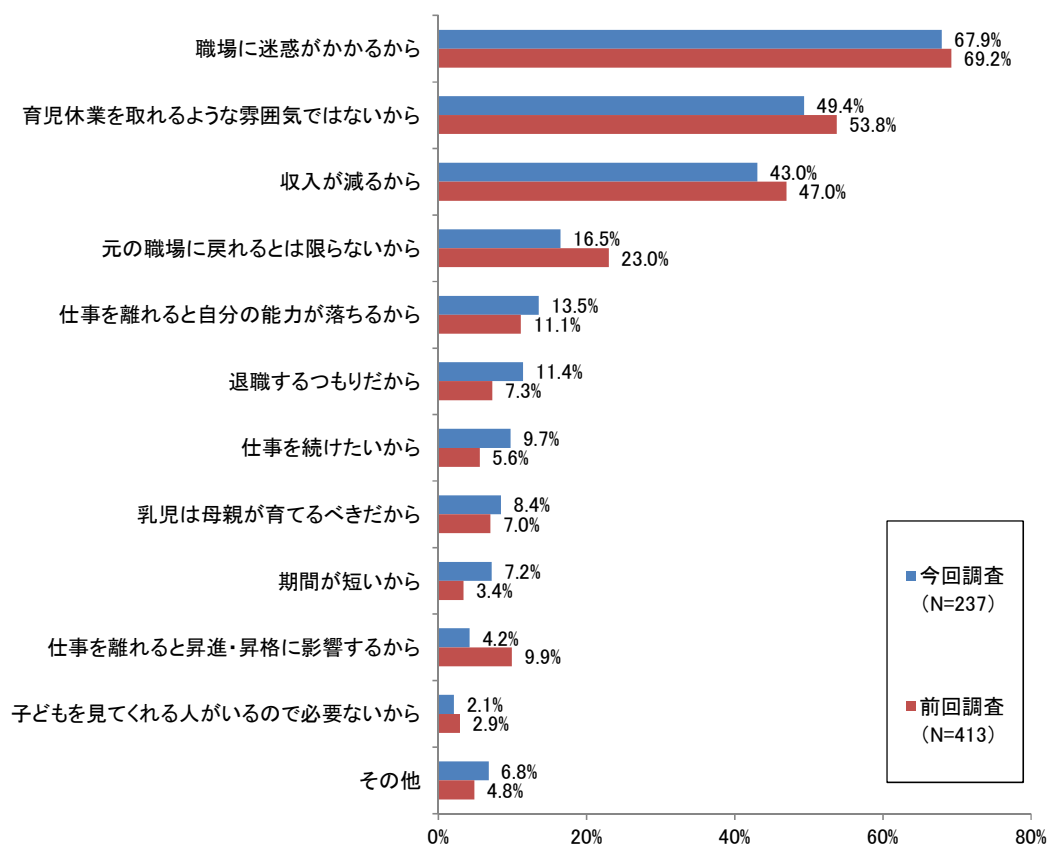


○育児休業制度を利用したくない理由

「職場に迷惑がかかるから」	…	67.9%
「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」	…	49.4%
「収入が減るから」	…	43.0%

育児休業制度を「利用したいが難しい」又は「利用したくない」と回答した人の理由は、「職場に迷惑がかかるから」（67.9%）と回答した人の割合が最も高く、以下「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」（49.4%）、「収入が減るから」（43.0%）などの順となっています。

前回調査時と比べると、「職場に迷惑がかかるから」、「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」などの項目が下回る一方、「仕事を離れると自分の能力が落ちるから」、「仕事を続けたいから」などの項目が上回っています。

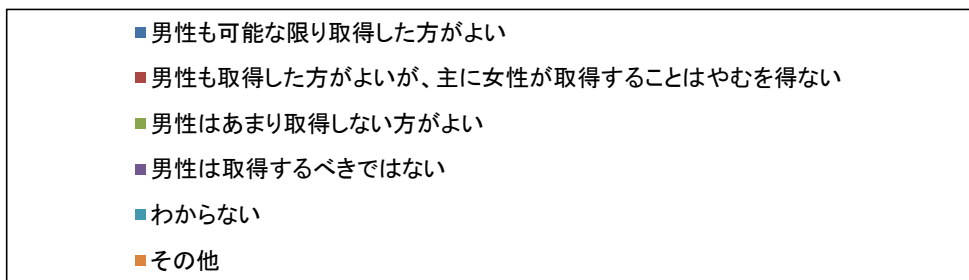
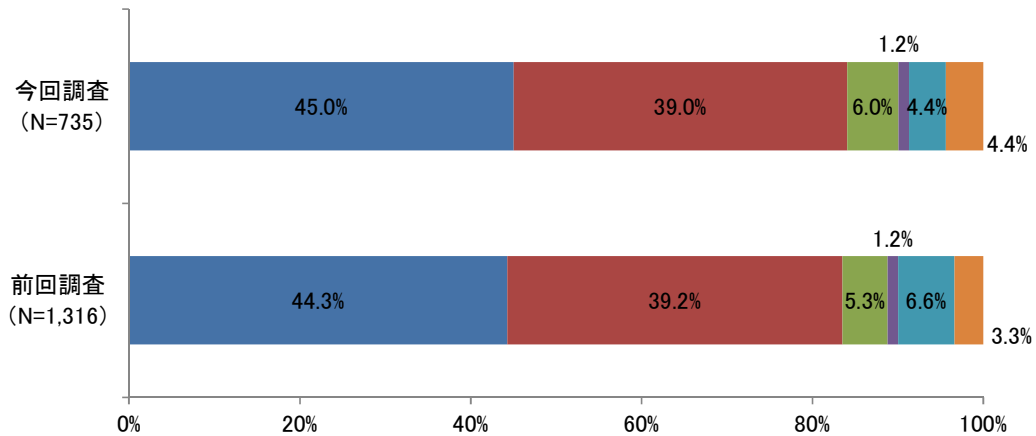


○男性の育児休業制度取得に対するイメージ

「可能な限り取得した方がよい」	…	45.0%
「男性も取得した方がよいが、主に女性が取得することはやむを得ない」	…	39.0%

男性が育児休業を取得することについては、「男性も可能な限り取得した方がよい」（45.0%）と回答した人の割合が最も高く、次いで「男性も取得した方がよいが、主に女性が取得することはやむを得ない」（39.0%）となっています。

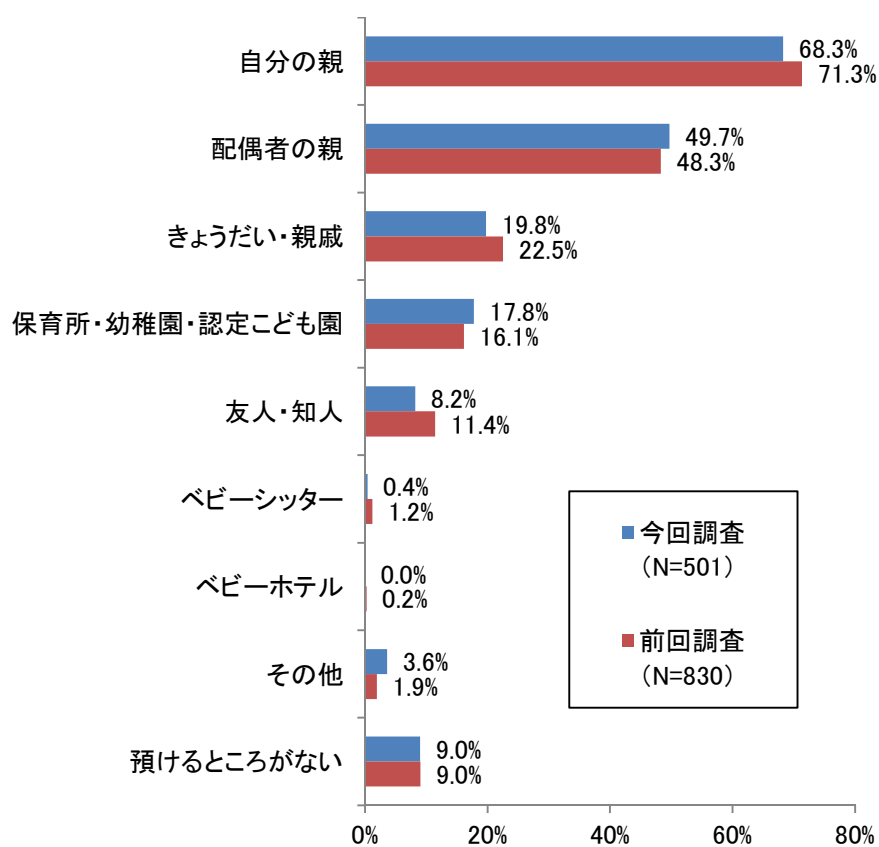
前回調査時と比べると、大きな差はみられません。



4 その他

○急用時に子どもを預ける場所			
1位	自分の親	…	68.3%
2位	配偶者の親	…	49.7%
3位	きょうだい・親戚	…	19.8%

急な用事が入った場合に子どもを預ける場所については、「自分の親」(68.3%)の割合が最も高く、次いで「配偶者の親」(49.7%)となっています。前回調査時よりは、「認定こども園・幼稚園・保育所」の利用率がやや上昇しています。

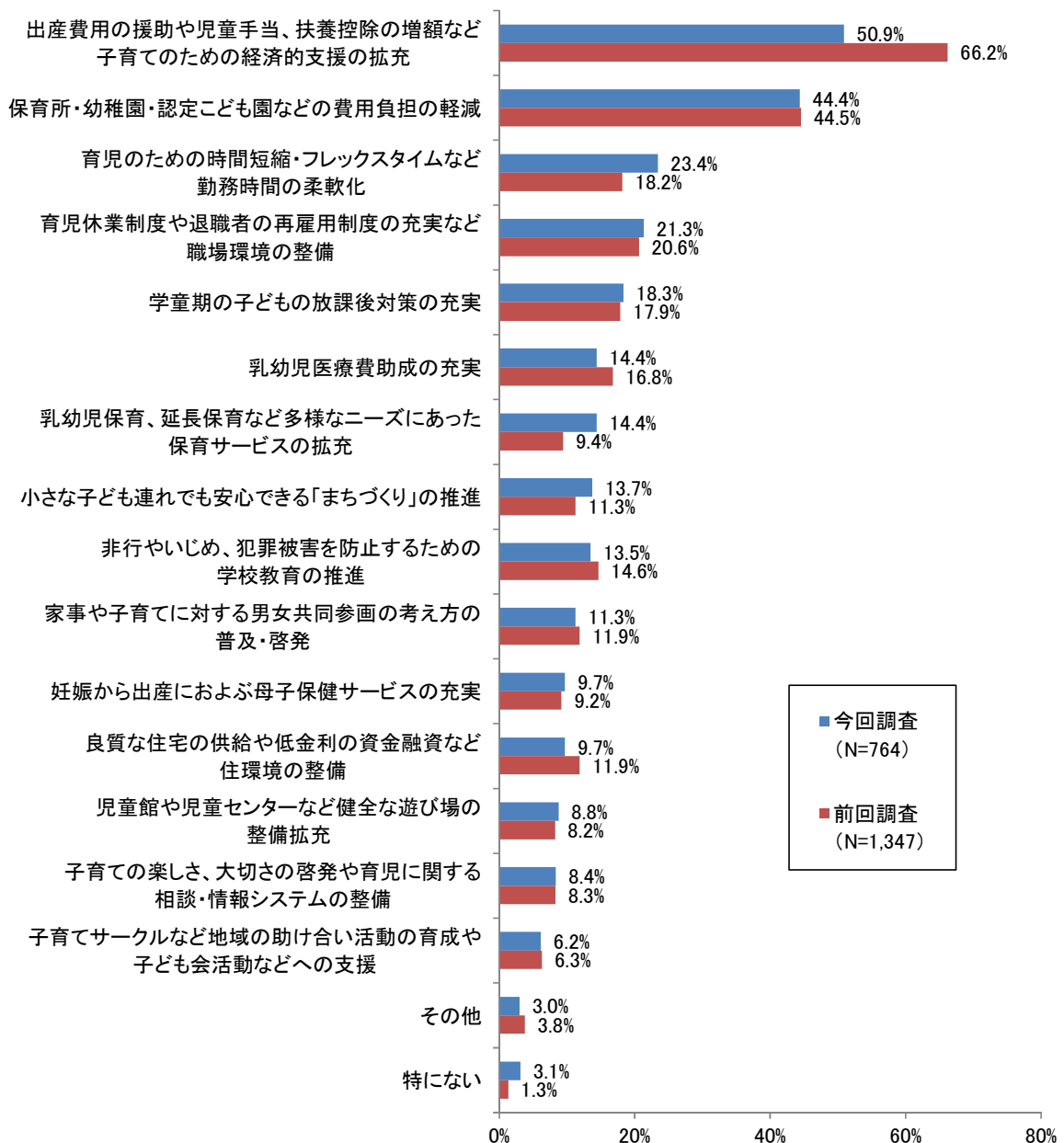


○子育て環境の整備について行政に望むこと

1位	出産費用の援助や児童手当、扶養控除の増額など 子育てのための経済的支援の拡充	…	50.9%
2位	認定こども園・幼稚園・保育所などの費用負担の軽減	…	44.4%
3位	育児のための時間短縮・フレックスタイムなど 勤務時間の柔軟化	…	23.4%

子育て環境の整備について、行政に求める施策については、「出産費用の援助や児童手当、扶養控除の増額など子育てのための経済的支援の拡充」(50.9%)の割合が最も高く、次いで「保育所・幼稚園・認定こども園などの費用負担の軽減」(44.4%)となっています。

前回調査と比較すると、子育てに係る経済的負担の支援が依然として高い中、勤務時間の柔軟化や育児休業制度の充実等の仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に係る施策への要望が高まっています。



結婚・子育て意識調査

【調査ご協力のお願い】

日頃から、県政の推進にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、この度、宮崎県では県民の皆様方の結婚や子育てに関するご意見などを把握し、今後の皆様の福祉の向上に役立てることを目的として「結婚・子育て意識調査」を実施することといたしました。

この調査は、県内26市町村の協力を得て、住民基本台帳の中から無作為に抽出した約3,000名の皆様にご協力をお願いするものです。

本調査は、無記名方式で実施し、回収された調査票は全て統計的に処理し、本調査以外に利用することはありません。なお、ご回答いただきました調査用紙は、統計処理後速やかに処分いたしますので、ありのままをご記入ください。

ご多忙の中大変恐縮ですが、調査の内容の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

* ご記入に際してのお願い *

- 調査票をお送りしたあて名のご本人が、全ての質問にお答えください。
- 回答はあてはまるものを指定された数だけ○で囲んでください。
一部数字を記入するものや、回答が複数の場合がありますので、設問の指示に従ってお答えください。
- 「その他」に○をつけられた方は（ ）に具体的な内容をご記入ください。
- 質問の進み方は、質問前後の「注意書き」に従ってください。
- ご記入いただいた調査票は、8月22日（金）までに同封の返信用封筒にてご投函いただきますようお願いいたします。（切手は不要です。また、封筒にあなたのご住所、お名前を記入する必要もありません。）
- 調査についてご不明な点や疑問点がありましたら、以下までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

宮崎県福祉保健部こども政策局こども政策課
こども企画担当 一政（いちまさ）
（電話）0985-44-2602（直通）

【調査委託先】

（株）地域経済研究所
（電話）0985-22-0087

平成26年8月
宮 崎 県

本調査票を回答されるあなたご自身のことについて、一般的なことがらをおたずねします。各項目についてお答えください。

次の項目の中からあてはまるものに○をつけてください。

性別	1 男	2 女
----	-----	-----

年齢	1 20～24歳	2 25～29歳	3 30～34歳
	4 35～39歳	5 40～44歳	6 45～49歳

居住地	(_____ 市・町・村)
-----	-----------------

職業	1 会社員	2 農林漁業
	3 自営業（商工・サービス業）	4 公務員・団体職員
	5 非常勤・パート	6 専業主婦
	7 学生	8 無職（6、7を除く）
	9 その他（具体的に	

ご本人を含む世帯人数	1 本人のみ	2 2人	3 3人
	4 4人	5 5人	6 6人以上

世帯構成	1 1人世帯	2 1世代世帯（夫婦のみ）
	3 2世代世帯（親と子）	4 3世代世帯（親と子と孫）
	5 その他の世帯	

婚姻の有無	1 未婚	2 既婚（配偶者あり）
	3 婚姻歴あり（離婚・死別した）	

子どもの有無	1 いる	2 いない
--------	------	-------

親との同居または別居の状況	1 <u>別居</u>	2 同居	3 その他（親がいない場合を含む）
	別居の場合、ご本人又は配偶者の親の居住地（どちらか近い方）についてもお答えください。		

1 同じ建物又敷地内に住んでいる

2 徒歩5分以内の場所に住んでいる

3 片道15分未満の場所に住んでいる

4 片道1時間未満の場所に住んでいる

5 片道1時間以上の場所に住んでいる

※「片道15分」及び「片道1時間」とは、普段行き来にご利用している交通手段による所要時間をいいます。

